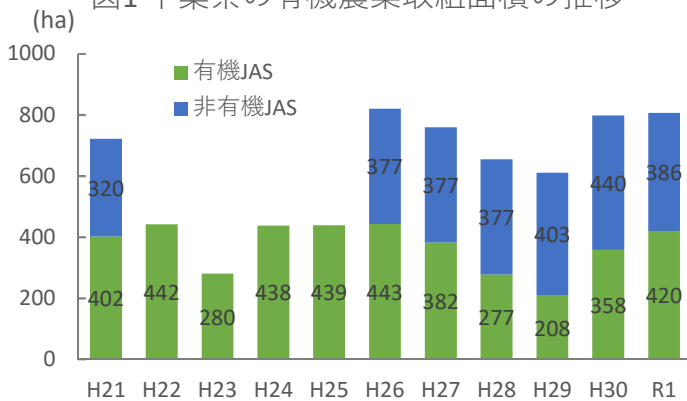


○千葉県の有機農業の状況

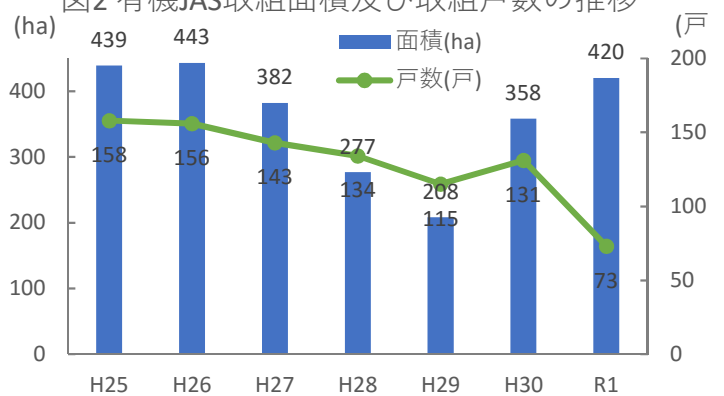
・取組面積はほぼ横ばい。取組農家数は減少傾向。

図1 千葉県の有機農業取組面積の推移



*非有機JAS面積は推計値 (H22～25は推計値なし)

図2 有機JAS取組面積及び取組戸数の推移



*H25～30は県別有機JASほ場の面積、
県別有機認証事業者数 (農水省HP)、R1は有機農業
の取組面積等実態調査 (安全農業推進課)

【アンケート目的と実施概要】

第3次千葉県有機農業推進計画の策定に当たり、県が把握している有機農業を行っている、もしくは今後取り組む意向のある個人・法人に対しアンケートを実施、結果をまとめた。

①平成30年度

調査期間：平成30年11～12月
対象者：県内有機農業者 360件
回答数：118件 (回答率 33%)

②令和2年度

調査期間：令和2年6～7月
対象者：県内有機農業者 346件
回答数：150件 (回答率 43%)

※図のタイトルにH30と記載されているものはH30調査結果、年度の記載のないものはR2調査結果を表す。

1 有機農業の取組み状況

- ・経営類型は、「野菜」が最も多く、次いで「水稲」の順となった。
- ・経営主の年齢は、「70代以上」が最も多く、次いで「60代」、「40代」であり、後継者がいないものが約半数を占めている。
- ・有機農業従事年数は、「11～20年」が最も多く、次いで「6～10年」、「1～5年」の順であり、比較的経験年数の少ないものが多い。
- ・有機農業への参入方法は、農外からの新規参入が約半数、他の農法からの転換が約3割。新規参入・転換参入の課題は、「販売先の確保」「農地の確保」「資金の確保」等である。

図3 経営類型

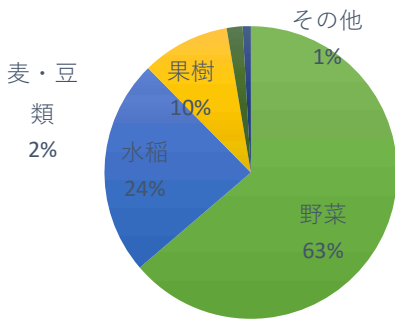


図4 経営主の年齢

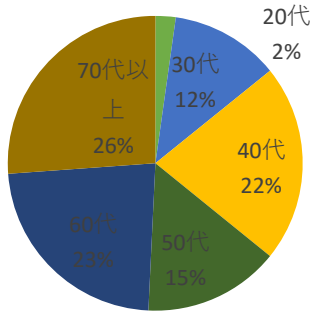


図5 後継者の有無

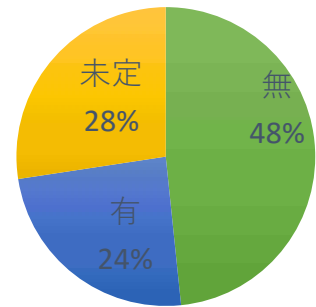
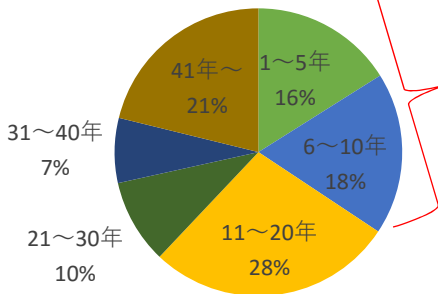


図6 有機農業従事年数



従事年数が10年以下の割合は34%

図7 有機農業への参入方法

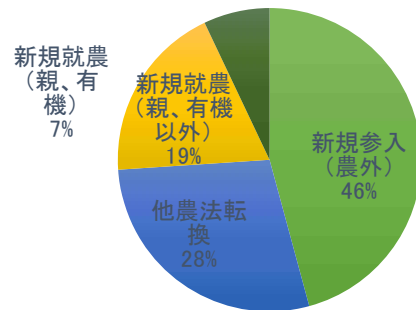
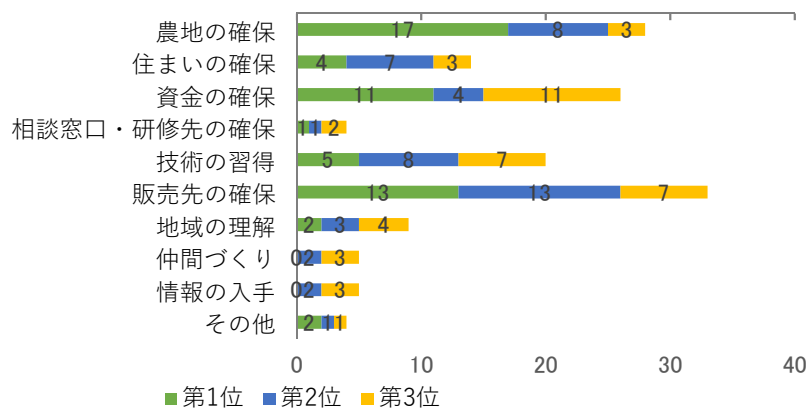


図8 新規参入・転換参入の課題



2 有機JAS認証について

- ・有機JAS認証を取得した理由は、「消費者の信頼感を高めたい」「販路拡大」「取引先から求められた」が多い。
- ・現在、有機JAS認証を取得していない農業者が過去に取得したことがあるものは6%。
- ・有機JAS認証取得をやめた理由は、「認証取得のための事務手続きが負担」「有機JAS認証を取得しても有利販売できない」等があげられた。
- ・1～5年目の新規就農者は5割が有機JASの取得したい、もしくは必要あれば取得したいと回答。

図9 有機JAS認証を取得した理由

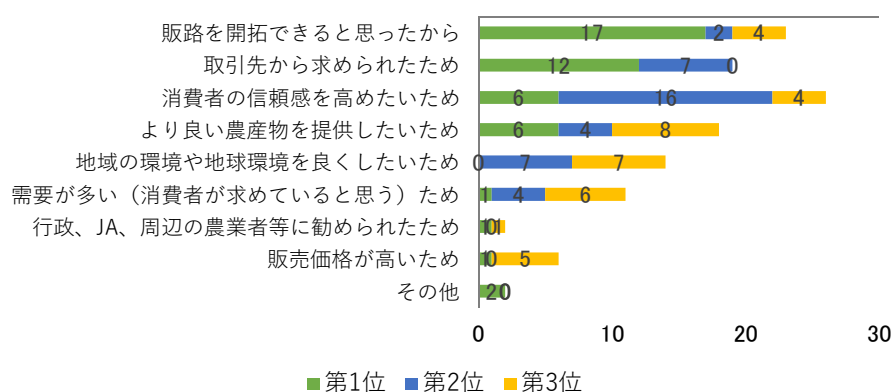


図10 有機JAS認証を取得していない農業者の過去の取得状況

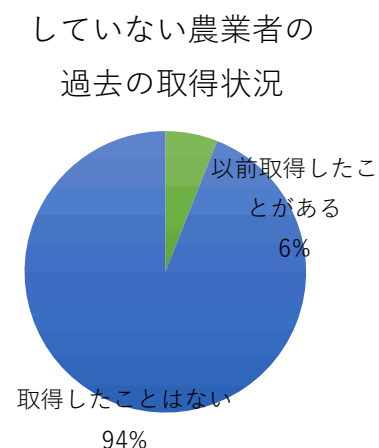


図11 有機JAS認証取得をやめた理由

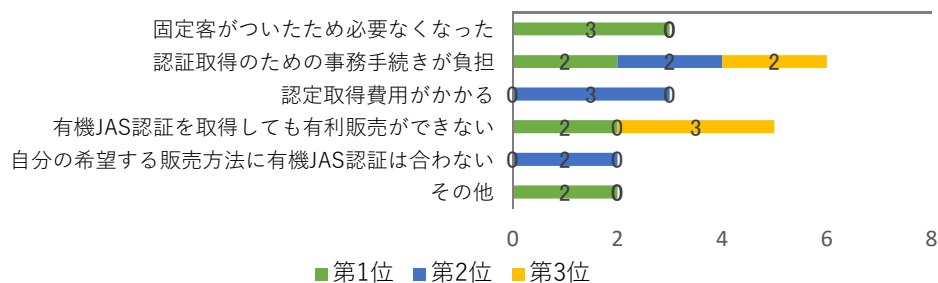
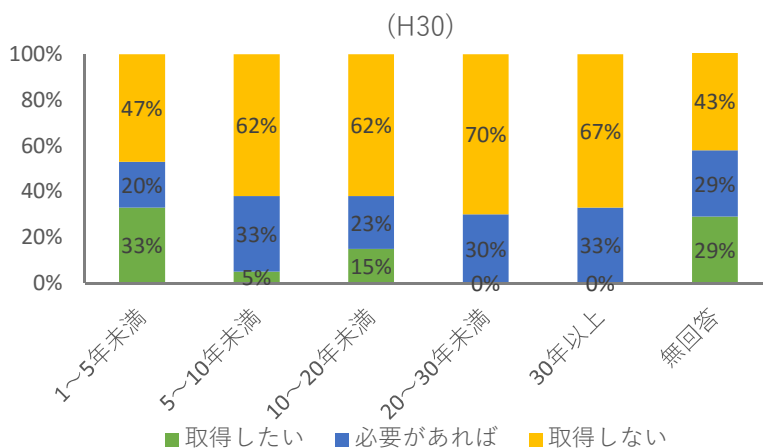


図12 有機農業経験年数別有機JAS取得意向



3 経営意向と規模拡大の課題

- ・今後の経営意向については、「現状維持」が半数以上を占め、「拡大したい」は35%であった。
- ・栽培面積拡大の阻害要因は、「労働力不足」「希望価格で販売できない」「販路確保が困難」等があげられた。
- ・労働負担が大きい作業としては、「雑草対策」が最も多くあげられた。
- ・生産がうまくいかない要因も同様に「雑草」があげられた。

図13 今後の経営意向

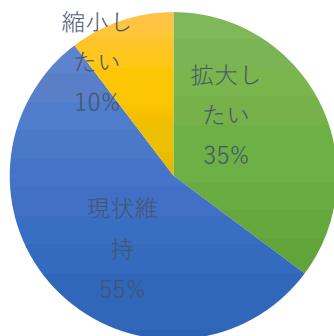


図14 栽培面積拡大の阻害要因

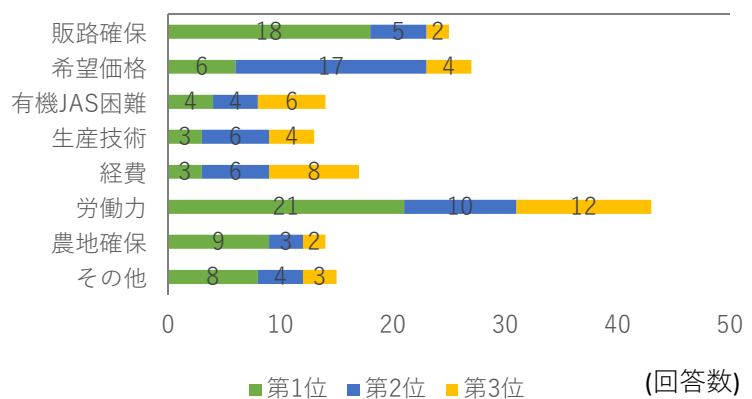


図15 労働負担が大きい項目

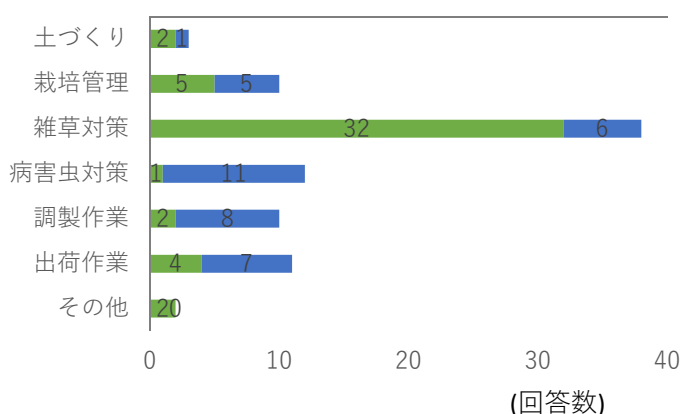
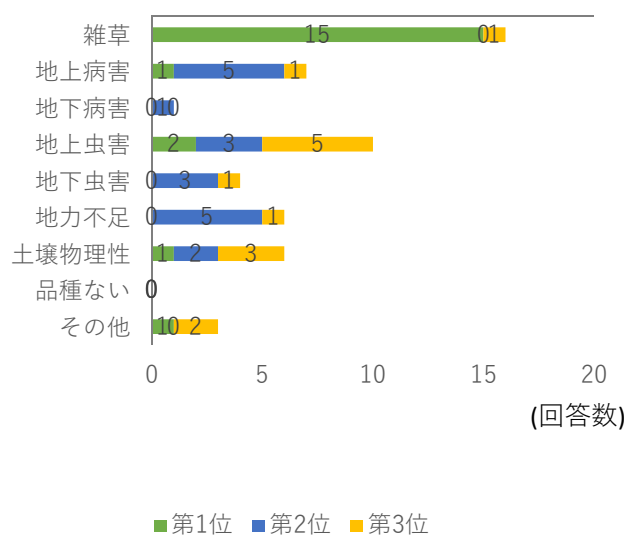


図16 生産が上手くいかない要因



4 販売状況について

- ・現在の販売先は、「直売所」「流通販売会社」「消費者（グループ）」の順に多い。
- ・希望の販売先は、「消費者（グループ）」「流通販売会社」「直売所」の順に多い。
- ・県内の直売所における有機農産物の取扱い割合は20%未満。取扱いは横ばい。

図17 現在の販売先

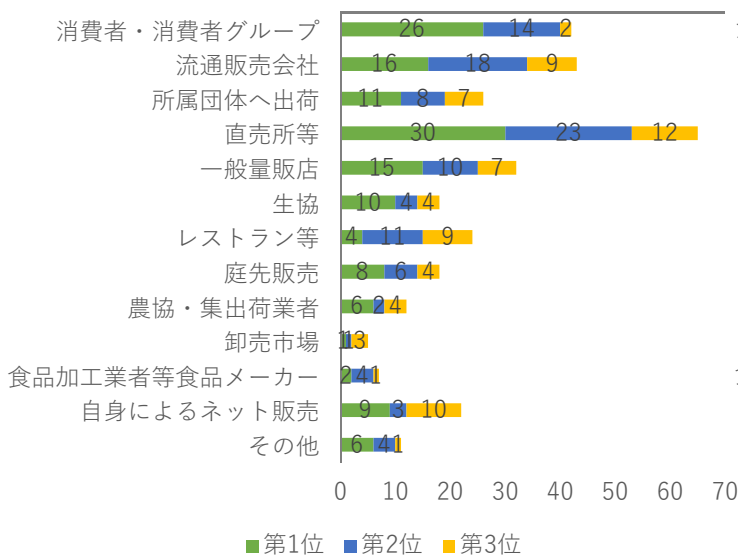


図18 希望の販売先

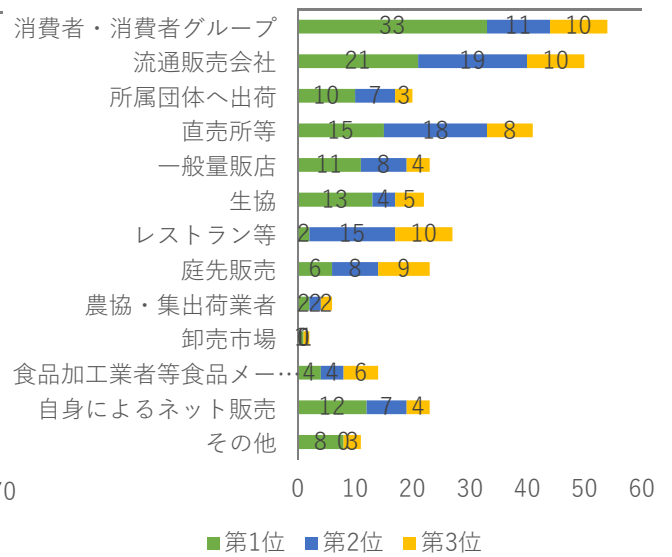
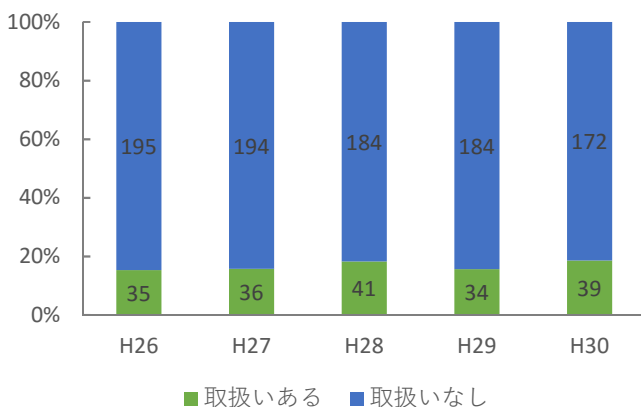


図19 県内直売所における有機農産物の取扱い状況



	H26	H27	H28	H29	H30
取扱いあり	35	36	41	34	39
(取扱割合)	15%	16%	18%	16%	18%
取扱いなし	195	194	184	184	172
回答数	230	230	225	218	211

資料：県流通販売課農林水産物直売所実態調査

5 有機農業者によるネットワーク化について

- ・有機農業者により構成される団体について、「必要」と回答した者が43%おり、既に団体に所属しているものが29%いる。
- ・農業者だけでなく、消費者・実需者等で構成される推進組織を「必要」としたものは76%おり、そのうち、「参加したい」と回答したものは70%いる。

図20 有機農業者団体の必要性

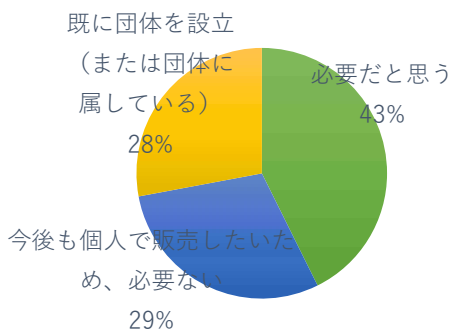


図21 有機農業者、消費者、実需者等で構成される推進組織の必要性

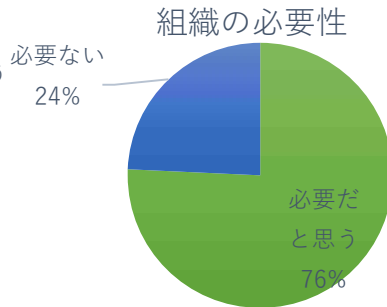
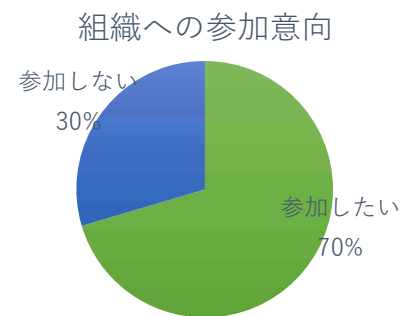


図22 有機農業者、消費者、実需者等で構成される推進組織への参加意向



6 行政への要望について

- ・行政への要望として、「施設・機械導入への助成」「消費者・実需者への理解促進」「国の助成事業の継続（環境直払等）」が多い。
- ・消費者の理解を得るにあたって、「消費者と生産者との交流や食育」「消費者向けフォーラムの開催」があげられている。

図23 行政に望むこと（全般）

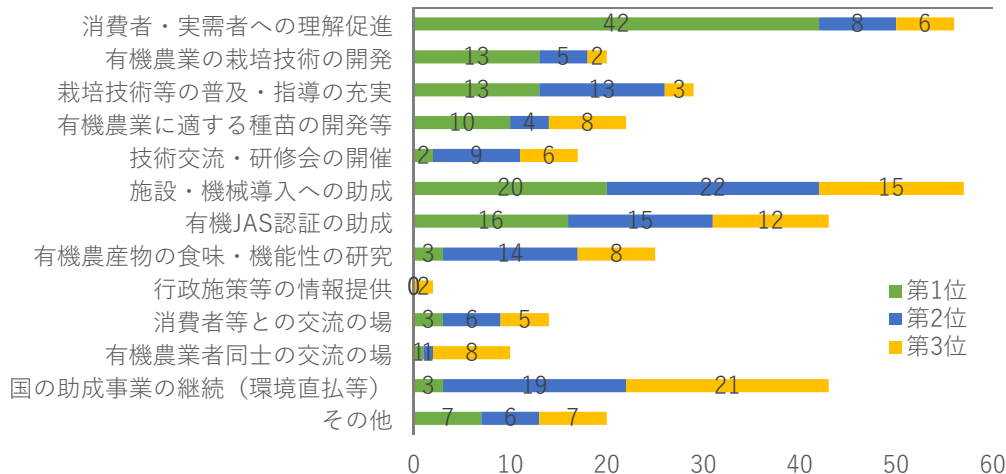


図24 行政に望むこと（消費者理解）
(H30調査)

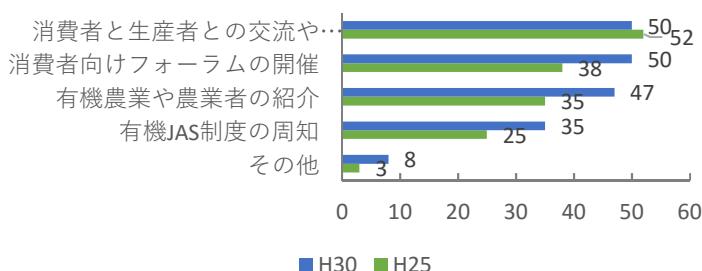
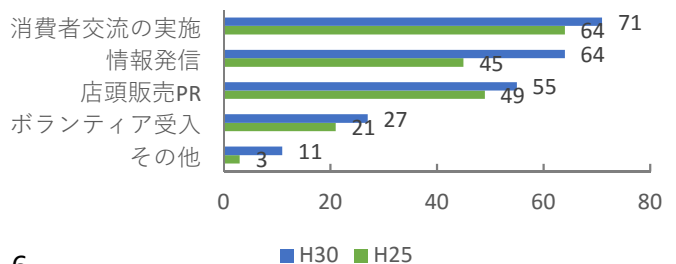


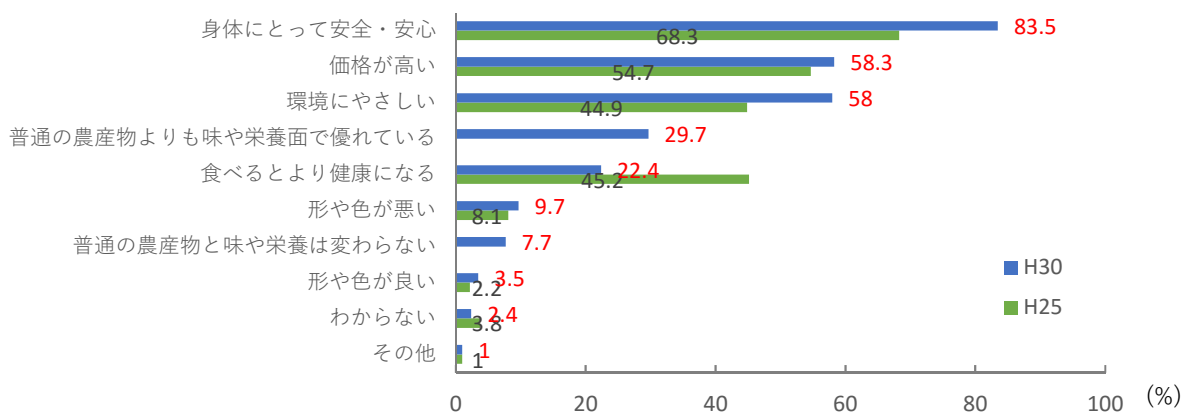
図25 消費者理解のための取組
(H30調査)



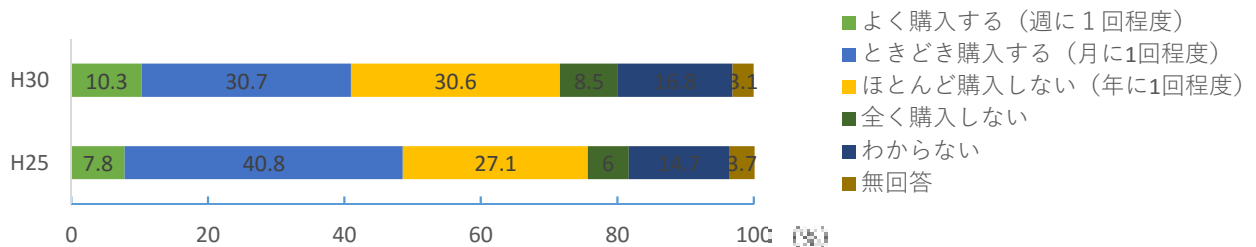
参考 有機農業に対する消費者の意識（県政世論調査H30.11）

- 『有機農業により生産された農産物に対するイメージ』は、5年前と同様に「安全・安心（83.5%）」が最も高く、続いて『価格が高い(58.3%)』『環境にやさしい(58.0%)』と続いている。第2次計画のうち「消費者理解の増進」における目標である「環境にやさしい」と回答した人が5割を超えたことから目標を達成。
- 『有機農業により生産された農産物の購入頻度』は、「よく購入する（週に1回程度）」と回答した人は全体の10.3%と5年前の7.8%と比較して微増。
- 『有機農業により生産された農産物の購入理由』は、5年前と同様に「身体にとって安全・安心だと思うから」「健康に良さそうと思うから」「生産者が分かることが多いから」の順で回答があり、そのうち「身体にとって安全安心」については『有機農産物に対するイメージ』ともに増加したことから、農産物への安心・安全を求める消費者が増加。

参考-1 有機農業により生産された農産物に対するイメージ



参考-2 有機農業により生産された農産物の購入頻度



参考-3 有機農業により生産された農産物の購入理由

